

＝－＝

東海生研 ～ メールマガジン 第149号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

＝－＝

**** 《もくじ》 ****

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術
○ 移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
- ☆NP0法人東海地域生物系先端技術研究会総会及び第1回セミナー (6月22日)
- ☆平成29年度の東海生研・行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆平成29年度地域産学バリュープログラム (JST)
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
- ステージⅢ：NexTEP-A タイプ
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)
- ステージⅢ：NexTEP-B タイプ
- ☆国際科学技術共同研究推進事業 (戦略的国際共同研究プログラム) (JST)
- 平成29年度 日本－中国共同研究課題の募集
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
- ☆平成29年度戦略的創造研究推進事業 (CREST) (JST)
- ☆平成29年度戦略的創造研究推進事業 (さきがけ) (JST)
- ☆平成29年度研究開発成果実装支援プログラム (JST)
- ☆平成29年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
- ☆平成29年度研究開発型ベンチャー支援事業 (NEDO)
- ☆平成29年度国際研究開発／コファンド事業／ (NEDO)
- 日本－イスラエル研究開発協力事業
- ☆平成29年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金

◆ 1 ◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度NPO法人東海地域生物系先端技術研究会総会および第1回セミナー

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催します。

【開催日時】平成29年6月22日(木) 14:30~15:30 総会
15:45~16:45 第1回セミナー

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 13階 1302号室
アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第1回セミナー】

講演: 「地域農業の将来を考える視点」

愛知県農業振興基金理事長(NPO法人東海生研副理事長) 可知祐一郎氏

【情報交流会】ウインクあいち13階 1306号室 会費制:3000円

【参加申込み】セミナー参加のみは無料です。お申し込みは、本メールマガジン最下段の「お問い合わせ先」宛てに、電子メール又はファックスで、所属・氏名をご連絡下さい。一般の方も参加できます。

☆平成29年度の東海生研・行事予定

- 第2回セミナー: 10月17日(火) 13:30~ ウインクあいち
- アグリビジネス創出フェア2017 in 東海: 11月7日(火)、8日(水)
名古屋大学野依記念学術交流館
- 第3回セミナー: 11月21日(火) ウインクあいち
- 競争的資金説明会: 1月中旬
- 情報誌「バイオテック東海»: 12月発行予定

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】平成29年5月~6月及び9月~12月(計7回)

【開催場所】名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや

【都市の木質化講座2017ポスター】http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf

【主催】名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト

【対象者】林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民(大学生以上)

【定員】30~40名

【参加費】テキスト代 1000円(7回分)、受講料無料(保険料・オプションは別途)

【申込み方法】上記のポスター(pdf)に書かれています。

【都市の木質化プロジェクト】<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>

【問い合わせ先】生命農学研究科 生物材料工学研究室

TEL:052-789-4146・4148 FAX:052-789-4147
E-mail: woodismnagoya@gmail.com
お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆平成29年度地域産学バリュープログラム (JST)

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：昨年度までのマッチングプランナー・プログラムが地域産学バリュープログラムに変わりました。本プログラムでは、地域における企業の競争力強化に資するべく、法人格を有する企業等の開発ニーズ（以下、企業ニーズという）の解決等のため、大学等を対象に、大学等が保有する研究成果、知的財産（以下、「大学シーズ」という）がその解決に資するかどうかを確認するための試験研究開発費を支援する。支援にあたっては、大学等に在籍するコーディネータ等、事業化を目指す企業担当者や、国立研究開発法人科学技術振興機構（以下、「JST」という）が配置するマッチングプランナーなどの橋渡し人材が把握した企業ニーズと、対象となる大学シーズがマッチングされていることが前提です。産学共同研究開発の初期段階を支援することで、企業ニーズの解決に資するコア技術を創出し事業化を目指します。さらに、本格的な共同研究開発に繋げることにより将来的には社会的・経済的な波及効果が創出されることを狙いとする。

公募期間：平成29年3月29日（水）～5月31日（水）正午

☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-Aタイプ（第一回）

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (JST)

平成29年度 ステージⅢ：NexTEP-B タイプ

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-b-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づく実用性が検証されているシーズのうち、研究開発型企業の比較的小さな規模の実用化開発を支援する。

公募期間：平成29年3月1日～6月9日

.....
☆国際科学技術共同研究推進事業（戦略的国際共同研究プログラム） (JST)

平成29年度 日本－中国共同研究課題の募集

http://www.jst.go.jp/inter/sicorp/announce_ch_NSFC2nd.2017.html

分野等：植物－微生物共生系、微生物叢の機能と制御に着目した基盤技術の創出

公募期間：平成29年3月13日～5月19日

.....
☆産学共同実用化開発事業NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆産学共同実用化開発事業NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～7月31日

.....
☆平成29年度戦略的創造研究推進事業 (CREST) (JST)

<http://senryaku.jst.go.jp/teian.html>

分野等：環境変動に対する植物の頑健性の解明と応用に向けた基盤技術の創出等

公募期間：平成29年4月12日～6月6日

.....
☆平成29年度戦略的創造研究推進事業 (さきがけ) (JST)

<http://senryaku.jst.go.jp/teian.html>

分野等

- ・フィールドにおける植物の生命現象の制御に向けた次世代基盤技術の創出

- ・ 情報科学との協働による革新的な農産物栽培手法を実現するための技術基盤の創出等

公募期間：平成29年4月12日～5月30日

☆平成29年度研究開発成果実装支援プログラム 社会技術研究開発センター (JST)

http://ristex.jst.go.jp/proposal/current/proposal_2017.html

分野等：多くの人々が解決を望む社会の問題の解決に向けて、研究開発成果の実装に取り組む活動を支援する。対象とする領域としては、

- ・ 人口減少と高齢化がさらに進行することによって生ずる課題
 - ・ 環境・エネルギー・資源や食料などに関わる課題
 - ・ 都市や地方の創生にかかわる課題
 - ・ 国民の安全・安心に関わる諸課題（災害の復旧・復興を含む）
 - ・ 社会的弱者の支援、健全なこども・青少年の育成に関わる課題
- などを重視する。

公募期間：平成29年4月14日～6月8日

☆平成29年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2017/170414mono.htm>

分野等：1. デザイン開発に係る技術、2. 情報処理に係る技術、3. 精密加工に係る技術、4. 製造環境に係る技術、5. 接合・実装に係る技術、6. 立体造形に係る技術、7. 表面処理に係る技術、8. 機械制御に係る技術、9. 複合・新機能材料に係る技術、10. 材料製造プロセスに係る技術、11. バイオに係る技術、12. 測定計測に係る技術

公募期間：平成29年4月14日～6月8日

☆平成29年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100144.html

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等とNEDOが協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：平成29年4月3日～5月31日

☆平成29年度 国際研究開発/コファンド事業/日本－イスラエル研究開発協力事業 (NEDO)

http://www.nedo.go.jp/koubo/AT092_100106.html

分野等：NEDOは、平成26年7月、イスラエル産業技術研究開発センターとの間で基本協定書を締結し、両国の産業技術分野における研究開発を促進するこ

とに合意した。本事業では基本協定書に基づき、両国企業の共同研究開発を支援する。対象となる技術分野は、新エネルギー、省エネルギー、スマートコミュニティ、環境、ロボット、機械システム、電子・情報、材料・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー等で、研究開発要素を含む事業とする。

公募期間：平成29年4月7日～6月15日

☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム（I-Challenge!）（総務省）

http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術（Tokyo 3D Mapping）
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆農業・食品情報関係

・農林水産省のホームページに農業技術・研究の見える化サイトが開設されました！

農林水産省は、様々な農業技術に関する情報を集約した「農業技術総合ポータルサイト」、研究者や研究成果等の情報を提供する「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」を本年4月10日に公開しました。

<概要>

農林水産省は、農業現場における技術的問題の解決に役立てるために、最新の技術や研究成果について、生産者が活用しやすい環境を整備しました。これまで、ホームページ等に分散していた農業技術に関する情報を集約し、一元的に検索可能な「農業技術総合ポータルサイト」を公開しました。また、多数の農業研究者と研究成果等を検索できる「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」を公開しました。これらは、スマホ・タブレットでも閲覧できます。

「農業技術総合ポータルサイト」は、下記の URL より御覧下さい。

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html

新規就農者や新たな作物に挑戦する人が知りたい各品目の基本的な栽培技術の情報のほか、現場が直面している課題解決に役立つ様々な実用化技術やマニュアルなどを知ることができます。また、最新の研究成果や研究者にアクセスしたい先進農家等は「まるみえアグリ」を利用できます。

「まるみえアグリ：農業研究見える化システム（仮称）」は、下記 URL から御覧下さい。

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/>

平成29年4月10日までに収録された研究者と研究成果の数は、それぞれ約3,300名と約28,000件で、今後も充実させる予定となっています。生産者をはじめ、普及指導機関、関連団体・企業等により活用されることが期待されています。

☆野菜関係

- ・船便によるイチゴ輸出に適したパッケージ方法
(国立研究開発法人農研機構・九州沖縄農業研究センター)

イチゴの輸出は果実の損傷を防ぐために、航空便によって行われています。一方、輸送の低コスト化を目的に冷蔵コンテナを用いた船便の導入が提案されていますが、輸送期間が長期となることから品質保持が困難であり、いまだ実現に至っていません。そこで、果実の損傷程度を低減できる伸縮性フィルム容器(2010年度研究成果情報)もしくは宙吊り型新型容器に、MA(Modified Atmosphere)包装による鮮度保持技術(2007年度研究成果情報)を併用してシンガポールへの輸送試験を実施し、両技術の応用例として、船便でもイチゴの品質保持が可能なパッケージ方法を提示しました。

「まるみえアグリ」：船便によるイチゴ輸出に適したパッケージ方法

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/237347>

☆水産関係

- ・クルマエビ類の種苗放流技術の高度化（愛知県水産試験場・漁業生産研究所）

クルマエビ類は、単価の高い沿岸漁業種ですが、最近はその漁獲量が最盛期の8分の1近くにまで減少しています。漁獲量を回復させるために、効果的・効率的な放流を行う必要があります。このため、これまで難しかった人為催熟技術を実用化するとともに、従来よりも捕食魚（ヒメハゼ）の生育密度が低く、個体サイズが小さい春季に放流することでクルマエビの回収率を高め、放流効果を上げることが出来ました。

水産研究成果情報：エビ類種苗放流技術高度化試験

http://fra-seika.fra.affrc.go.jp/~dbmng/cgi-bin/search/search_detail.cgi?RESULT_ID=4800&YEAR=2014

.....
編集後記

5月の連休が終わりましたが、今年は5月1日、2日に休みを取ると9連休となりました。海外旅行、国内旅行、里帰り、身近なところでの楽しみ等々、リフレッシュされたことと思います。ゴールデンウィークには、車の渋滞が大変で、遠出を控える方も多いかと推察されますので、近場でのイベントは、集客数を伸ばせる可能性があります。そのような中、三重県の伊勢志摩では、「お伊勢さん菓子博 2017」が連休後の5月14日まで開催されています。

ところで、最近読んだ本に井上智洋著「人工知能と経済の未来～2030年雇用大崩壊～」(文春新書、2016年7月発刊)があります。著者は、駒沢大学経済学部准教授で、計算機科学とマクロ経済学の専門家であり、日進月歩で進化を続けている人工知能が、将来の経済・雇用に及ぼす影響について述べています。現在でもディープラーニングに基づくAI(人工知能)技術は、チェス、将棋、囲碁で世界チャンピオンに勝つほどの進歩を遂げ、あるいは工場の自動化など、特化型AIとしての利用が進んでいます。2015年頃から、人間の知的なふるまいを一通りこなせる汎用AIの開発が世界的に競争となっています。これに勝った国が経済的に世界の覇者となっていく可能性が予想されています。2030年頃に汎用AIが実用化し、2045年頃にはこれが普及し、機械(ロボット)が人の雇用を奪い、全人口の1割しか人の雇用が無く、経済・社会のあり方が抜本的に変わる(シンギュラリティーという)可能性が述べられています。本書では、そのような時代における生活保障のあり方までも述べられています。2030年、2045年はまだ先ですが、AI技術の進歩は、それまでも順次進み、高齢化・人口減による労働力不足を補い、労働生産性を高めるというポジティブな面と、雇用機会が少なくなるというネガティブな面がありますが、この進歩に乗り遅れると国際競争に負けたり、労働力不足により企業経営に支障を来すことなどが想定されることなどからも、AI化の進行を止めることは出来ないでしょう。本書は、かなりショッキングな内容を含みますが、AI化の状況を知り、将来の社会・経済の有様を予想し、将来の企業経営のみならず、子供や孫の未来にも思いを馳せる上でも参考になるかと思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>